

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：アスカ工業株式会社における
アルミ工業炉更新事業

排出削減事業者名：アスカ工業株式会社

排出削減事業共同実施者名：ES カーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	アスカ工業株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	アスカ工業株式会社
住所	愛知県西尾市中畑町卯新田上 28
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ES カーボンクレジット合同会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

アスカ工業株式会社におけるアルミ工業炉更新事業

2.2 排出削減事業の目的

本事業は、重油焚きの前炉付反射炉 3 基を都市ガス焚きのリジェネレーティブバーナーを備えた前炉付反射炉 3 基に更新し、CO2 排出量を削減するものである。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

アスカ工業株式会社において、既設の重油焚きの前炉付反射炉 3 基を都市ガス焚きのリジェネレーティブバーナーを備えた前炉付反射炉 3 基に更新する。これによりエネルギー効率を改善し、さらに燃料を重油からより低炭素の都市ガスへ切り替えることにより、CO2 排出量を削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

無し。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2012年 6月 15日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～ 2017年 11月 30日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
003	工業炉の更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
工業炉	生産量	事業実施後エネルギー使用量
		生産量

4.2.2 活動量の採用根拠

工業炉のエネルギー使用量に最も影響を与える活動量は生産量であるため、生産量を活動量に採用する。

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、アスカ工業株式会社において更新される重油焚き前炉付反射炉 3 基及び都市ガス焚き前炉付反射炉 3 基により、アルミニウム二次合金地金の製造を行う設備である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
F _{fuel,Pj}	事業実施後の都市ガスの使用量	Nm ³	2013年度：2,998,990 2014年度：2,791,920 2015年度：2,822,028 2016年度：3,010,602 2017年度：2,024,248	ガス供給会社の請求書記載の都市ガス使用量(m3)から、他設備における使用量(m3)を差し引き、換算係数 0.957 ¹⁾ を乗じ算定	対象設備の都市ガス使用量の計測に関する記述を実態に即した形で詳述。
HV _{fuel,Pj}	事業実施後燃料(都市ガス)の単位発熱量	GJ/Nm ³	2013年度：44 2014年度：46.4 2015年度：46 2016年度：46 2017年度：46	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし。
G _B	事業実施前の工業炉のエネルギー原単位	GJ/t	2013~ 2017年度：6.008	更新前(2010年度)の燃料使用量と生産をもとに算定する。	変更なし。
G _P	事業実施後の工業炉のエネルギー原単位	GJ/t	2013年度：4.081 2014年度：3.926 2015年度：3.679 2016年度：3.841	更新後の燃料使用量と生産量を記録し、算定する。	変更なし。

			2017年度：3.800		
CF _{fuel,Pj}	事業実施後燃料（都市ガス）の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013年度：0.0517 2014年度：0.0517 2015年度：0.0521 2016年度：0.0521 2017年度：0.0521	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし。
CF _{fuel,BL,A}	事業実施前燃料（A 重油）の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013～ 2017年度：0.0708	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし。
CF _{fuel,BL,A}	事業実施前燃料（C 重油）の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013～ 2017年度：0.0741	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし。

1) ガス供給会社の請求書記載の使用量は、15°C、ガス圧 0.98kPa に換算した値。

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013年度	2,998,990.0	44	0.0517	6,822.1
2014年度	2,791,919.6	46.4	0.0517	6,697.5
2015年度	2,822,027.8	46	0.0521	6,763.3
2016年度	3,010,601.8	46	0.0521	7,215.2
2017年度	2,024,247.9	46	0.0521	4,851.3
合計	13,646,201.0			32,349.4
単位	Nm ³	GJ/千 Nm ³	tCO ₂ /GJ	tCO ₂
	EM _{PJ}			32,349.4

6.2 ベースライン排出量

(A 重油分)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013年度	99,465.6	(38.9)	0.0708	7,042.2
2014年度	101,495.8	(38.9)	0.0708	7,185.9
2015年度	108,549.3	(38.9)	0.0708	7,685.3
2016年度	110,896.3	(38.9)	0.0708	7,851.5
2017年度	75,379.7	(38.9)	0.0708	5,336.9
合計	495,786.7	(38.9)	0.0708	35,101.7
単位	GJ (A 重油分)	GJ/kl	tCO ₂ /GJ	tCO ₂
	EM _{BL} (A 重油分)			35,101.7

(C 重油分)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013年度	94,803.1	(40.7)	0.0741	7,024.9
2014年度	96,738.2	(40.7)	0.0741	7,168.3
2015年度	103,461.0	(40.7)	0.0741	7,666.5
2016年度	105,698.1	(40.7)	0.0741	7,832.2
2017年度	71,846.3	(40.7)	0.0741	5,323.8
合計	472,546.7	(40.7)	0.0741	35,015.7
単位	GJ (C 重油分)	GJ/kl	tCO ₂ /GJ	tCO ₂
	EM _{BL} (C 重油分)			35,015.7

(ベースライン排出量合計)

EMBL (A 重油分+C 重油分合計)	70,117.4
----------------------	----------

6.3 リークージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013年度				0
2014年度				0
2015年度				0
2016年度				0
2017年度				0
合計				0
	LE			0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EMBL	70,117.4
事業実施後排出量 (7.1)	EMPJ	32,349.4
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	37,768

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン －実績 (①－②)
24983.0	16,071.3	8,911.7

省エネルギー量(原油換算, kl) = 8,911.7

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年 4月 1日 ~ 2017年 11月 30日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			
	t			